

第23回 照明学会東京支部 照明フォーラム

委員企画

私たちの好きな東京のアカリ

〈企画主旨〉

第23回 照明フォーラムのテーマである『東京アカリトリドリ』のもと、委員自ら東京の様々な街を訪れ、夜の風景を切り取るとともに、それらを受ける印象によりマッピング形式で区分しご報告致しました。

当資料は発表の一部抜粋です。皆様が新たな東京の街アカリを発見される助力となれば幸いです。

〈構成〉

- 〔街アカリ紹介〕・・・東京のさまざまな街の街アカリをご紹介します。
- 〔アカリマッピング〕・・・街アカリに受ける印象をマッピング形式で区分します。

街アカリ紹介

東京のシンボル

〔ご紹介する街〕

○東京のシンボル
押上 / 赤羽橋

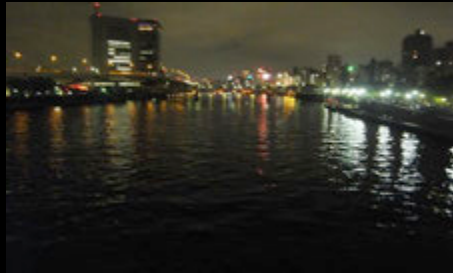
○東京を代表するまち
丸の内 / 銀座 / 渋谷
新宿 / 代官山・恵比寿

○花街の面影を残すまち
赤坂 / 荒木町

○郊外でにぎわうまち
蒲田 / 吉祥寺 / 仙川

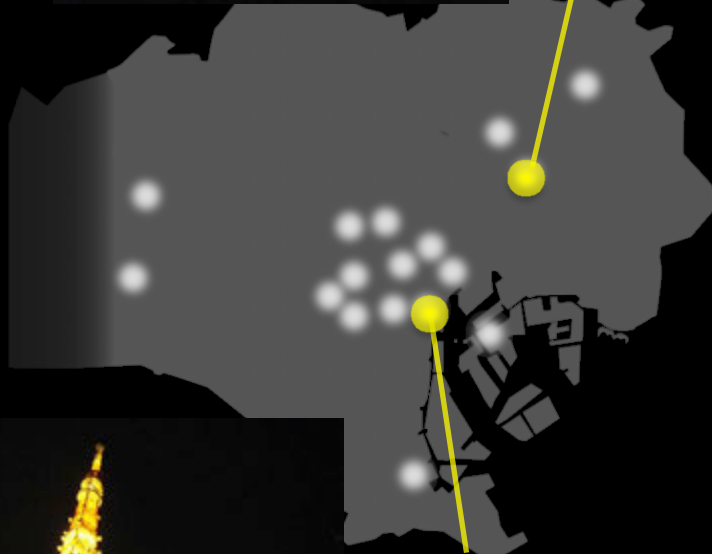
○閑静な住宅街
麻布 / 松濤

○水辺のまち
亀有 / 北千住 / 晴海埠頭
東雲



スカイツリーを取りまく押上。
人を惹きつけ、元気にさせ、わくわくさせる、
新たなアカリ環境が創り出されています。

押上



赤羽橋



東京タワーの間近の街、
赤羽橋。
住宅やオフィスのアカリは
控えめで、
どこからも東京タワーの
存在を強く感じます。

街アカリ紹介

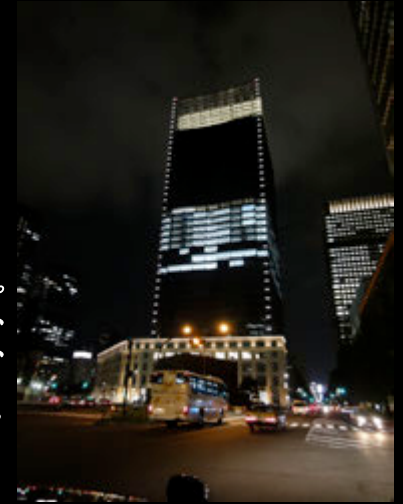
東京を代表する街



日本有数の繁華街、新宿。
めまぐるしく動く光の狼狽さは
多種多様な人と文化のつどう街、新宿を映
し出しているようです。
闇市を起源とする飲み屋街や、超高層ビル
群など、多様なアカリが点在しています。



東京の中心、丸の内。
洗練されたビル群のアカリと共に、
ビルの合間や皇居周辺には、
リラックスできる憩いの空間が
広がっています。



丸の内



若者文化の発信地、渋谷では、
バリエーション豊かなアカリ、狭い通りの主張の激
しいアカリが密集し、喧騒が聞こえてくるようです。

渋谷

恵比寿
代官山

観光や買い物で人気の
代官山・恵比寿。
住宅街に調和したアカリ、
駅周辺の賑やかなアカリ
など、狭いエリアの中に
様々な表情が見えます。



銀座



歴史の重みを感じさせる
クラシックなアカリから、
活気に満ちた色とりどりのアカリまで、
新旧さまざまな景色を内包する銀座。



街アカリ紹介

花街の面影を残すまち / 郊外でにぎわうまち

古い花街（かがい）として有名な
四谷三丁目駅に程近い、荒木町。
間口からもれる光と、箱看板が小さな路地を
埋め尽くし、昭和の風情を今に伝えています。



吉祥寺

吉祥寺は、光の陰影と木々の揺らぎが
心地よい井の頭恩賜公園や、都会的な印象を
与えつつも、間接照明で暖かみを創り出して
いる商店街など、アカリの表情の違いを見る
のも楽しい街です。



西東京の住宅街として人気が高まっている、仙川。
駅前のアカリや、安藤忠雄建築など街がアカリに工
夫を施している様子が伺えます。



荒木町
(四谷)



仙川

赤坂



赤坂・外堀通りは凛々しく整然とした印象。
しかし、路地には縦に伸びる飲食店の
看板がずらりと並ぶ、夜の雰囲気です。

蒲田



闇市から発展を遂げた蒲田。
アーケード街のファサードも健在で
どこか昭和の懐かしさを感じさせます。

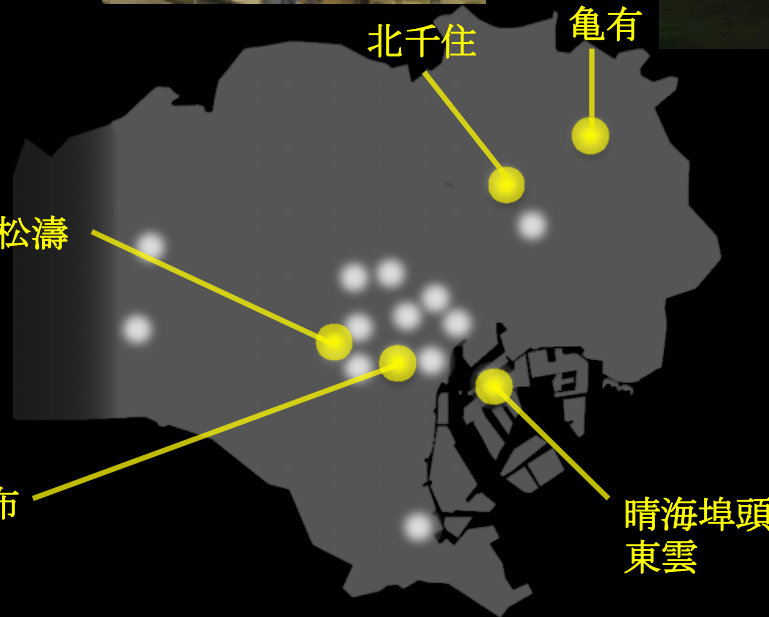
街アカリ紹介

閑静な住宅街 / 水辺のまち

北千住では、住宅地のシンプルなアカリと、遠景の未来的なアカリとの組み合わせが、多彩な街アカリを持つ東京の象徴のようです。



ゆったりした窓、玄関ポーチがから漏れてくるアカリが心地よい松濤。工夫がこらされたアカリも点在します。



大きな河川を有する亀有。穏やかな流れの川幅いっぱいに伸びたアカリは、街全体の景色をドラマチックに仕上げています。



湾岸の遠景は、未来的な要素と無機質なイメージとが重なった不思議な印象を与えます。



ギャラリーなども点在する静かな麻布。シンプルで、やわらかいアカリに出会うことができます。



立ち並ぶマンションでは、商業施設と住宅とが照明計画によって調和し、感性が育まれる環境が創られています。

アカリマッピング

【各グループ区分】

グループA

人の多い、気配を強く感じる街アカリグループ

グループB

人との距離が遠い街アカリグループ

グループC

人との距離が近く、人の動きが少ない街アカリグループ

【縦横軸設定】

縦軸：人の動き

－ 動きの速さ・多さ、人の気配

横軸：アカリとの距離

－ アカリと人との距離
目線との近さ光の広がり



多くの光が混在する場が中心のグループAでは、人とアカリとの距離が近いと、車のライトなどの動的な光が混在して視界に入り、「雑多」や「生活感」を感じやすくなります。逆に、距離が遠くなると、全体をひとつの街アカリとして捉えやすく雑多な印象が緩和されるため、「にぎやか」や「立ち寄りたくなる」イメージとなります。「立ち寄りたくなる」に区分された街アカリは、外に漏れる光が少なく、内部の光が誘致効果をより引きだしているといえるでしょう。

グループBには、大きな建物のある街や観光地などが含まれます。人の気配を感じやすいと、「にぎやか」や「立ち寄りたくなる」という印象を与えるのに対し、シンボルを遠くから眺めると巨大で強い光や建物そのものの力強さから、「元気になる」という印象になります。

グループCは、住宅街やオフィス街が多く分類されています。人の往来が多く狭い空間では、空間が狭いため光の広がりがなく、照明の少ない昔をイメージさせ、「懐かしい・哀愁」という印象となります。これに対し、より人が少なく、ゆったりした動きを想像させる環境では、足元照明による安全確保とともに、表情や動きは人に見えにくいいため、「ほっとする」印象が強くなります。

また、落ち着いた光の中でも、人の気配があると「集いたくなる」に、気配がないと「やすらぐ」という印象になります。

マッピング結果を見ると、街アカリは、人の動きや気配、距離感などによってその印象を変化させていることがわかります。